うことが必要である。船場商人が，その団結力によって幾多の危機を乗り越えてきたように，大阪の地盤沈下も彼らが牽引力となって浮上する日があることを確信するものである。

神戸の住宅地形成

横道　光

神戸市の市街地は，はじめ歴史的な都市的集落としての兵庫と住吉川扇状地扇端部の酒造集落にはじまり，開港後は現在の神戸市のＣＢＤを中心とする神戸地区の発展に伴い，その東・西の両側に拡大しはじめた。この拡大は，六甲山地が海に迫り，東西に走る無数の断層崖によって形成された地形の遷移点の南側のわずかの南下りの傾斜地と，海岸低地の上で行なわれた。このため市街地は必然的に東西方向に細長く伸びることになったが，この幅のせまい帯状の市街地は神戸市の発展の歴史を投影して多彩な地域性をみせている。

住宅地に関して言えば，変化に富む地形は一方では自然の景勝を生み出し，須磨の海岸や東灘の山麓傾斜地などのように，海と山を一体とした景観に恵まれ，又，東灘の一帯は大阪に近いということから関西財界人や伝統的な問屋・商店等の経営者たちの住宅地として好まれ，豪邸が林立したが，さらに私鉄の発達に伴い，その周辺は良好な通勤住宅地となっていった。

しかし，日本を代表する国際貿易港を持ち，関連重化学工業も発達し，さらに酒造その他の地場産業をもつ神戸市は産業都市として活発な生産活動にもたずさわっている。このため，産業地区の周辺には上述の上・中流の住宅地とは対照的な労働者の居住地区も形成された。その代表例が長田区である。そこには底辺労働力を駆使し，零細な経営規模からなるゴム工場が集積していて，住・工の混在した劣悪な住環境がつくりだされている。

このような点を要約していえば，神戸市の既成市街地は，旧神戸を中心とするＣＢＤ地区，海岸部の臨海工業・港湾地区，国鉄線以北の住宅地に分けられる。さらに住宅地は，東の東灘区，西の須磨区を中心とする高級住宅地区，長田区を中心とする大衆住宅地区，及びその中間の一般住宅地区，に分けられる。

さらに，六甲山地の北側に戦後，とくに高度成長期以後に新しく発展した神戸市特有の近郊住宅地がある。これらについては，北東部が主に民間自力開発を中心に形成された自然発生的な近郊住宅地であるのに対し，北西部は西神ニュータウンを中心とする公共主導型の団地開発の盛んなところである。そして，これらは，海が見える六甲山麓にひらけた住宅地という，従来の神戸市の住宅地のイメージとは異なった，もうひとつの新しい神戸の顔としての住宅地へと発展しつつある。